

■菅江真澄 紀行家、地誌編纂者。東日本各地を旅して回り、当時の民俗を知る上で貴重な彩色絵紀行文を多数残した。

すがえますみ

山脇東洋解剖1754 =

生。生地は三河国渥美郡といわれる。

のちに三河国乙見荘、さらに名古屋に移住した。

大岡忠光没・1760 = 6歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1763 = 9歳：

生まれつき和歌の才能があり、
この頃には、大人の注目をあび、

蘭銭初輸入・1765 = 11歳：

田沼意次老中1772 = 18歳：

解体新書・ ・ 1774 = 20歳：作品が収録されている。

名古屋に出て、本居宣長門下の田中道麿に師事して、国学を学ぶほか、
隠棲する画家で漢学者の丹羽嘉信に入門し、

江戸船蝦夷来 1778 = 24歳：その庵室のようすを書いた「般室記」、

源内獄中死・1779 = 25歳：「石居記」として遺している。

・ ・ ・ ・ ・ 1780 = 26歳：嘉信らと伊吹山に薬草採集旅行に赴いたり、文献等で地誌や古代研究の方法を身につける。

・ ・ ・ ・ ・ 1781 = 27歳：母が死去。この年より、家を出て各地を旅するようになる。

蘭学階梯・ ・ 1783 = 29歳：以後、*諸国への長い旅に出た。まず信濃の千曲(筑摩)川に沿って姥捨山に出、

意知刺殺事件1784 = 30歳：越後路をめぐって羽黒山に登り象潟を経て秋田の地に入る。

蝦夷初調査・1785 = 31歳：秋田領を去って津軽から南部を経て、仙台路に向かい、江刺郡で越年、

田沼意次失脚1786 = 32歳：松島ほか仙台路を巡り、

・ ・ ・ ・ ・ 1788 = 34歳：平泉から野辺地を経て、蝦夷の松前に渡る。

異学の禁・ ・ 1790 = 36歳：

カスミ来日・ 1792 = 38歳：下北に渡って恐山に登り、田名部で越冬、

松平定信引退1793 = 39歳：再び恐山に登り、

ワタノ 正月・ 1794 = 40歳：三たび恐山に登ったのち、

写楽・ ・ ・ 1795 = 41歳：津軽に戻ると、

昌平覺始・ ・ 1797 = 43歳：津軽藩採葉御用を囑託され、

蝦夷地直轄始1799 = 45歳：

3年間従事して、採集を行い、多額の礼金を受ける。

宣長没・ ・ ・ 1801 = 47歳：津軽を立ち、秋田に入る。

その生涯の大半は、東北日本の旅に過ごし、見聞した記録は、「真澄遊覧記」などにまとめられている。記録は、ほとんど旅日記と地誌の体裁をとっている。注目されるのは、文中に挿入されている彩色絵であり、対象物を正確に写生している点が評価されている。現地に長期滞在すると、世話になったお礼として、紀行文の写本を置いていくという習慣もあった。彼の貴重な観察記録が各地によく保存されているのもそのためである。

フェイト号事件 1808 = 54歳：一度故郷三河に帰ったと推定される。

・ ・ ・ ・ ・ 1810 = 56歳：再び、秋田に行き、菅江真澄と名のって、

ゴッコン拿捕 1811 = 57歳：*久保田城下に住むようになった。

浮世床・ ・ ・ 1813 = 59歳：秋田藩主佐竹義和に地誌編纂の企画書を提出。

・ ・ ・ ・ ・ 1815 = 61歳：佐竹義和が没する。

杉田玄白没・ 1817 = 63歳：

水野忠成老中1818 = 64歳：

膝栗毛終・ ・ 1822 = 68歳：「久保田の落穂」、

シロノ 来日・ 1823 = 69歳：*いわゆる「真澄遊覧記」全てを藩校明德館に献納。

シロノ 田嶋淹塾1824 = 70歳：藩から地誌の編集と調査を許可され、着手。出羽6郡の地誌作製に従事。

・ ・ ・ ・ ・ 1826 = 72歳：

約46巻にわたる大著のほとんどを完成させるも、

シロノ 田追放・ 1829 = 75歳：*最後の1巻が未完となって、病没した。

秋元松代「菅江真澄」、「人づくり風土記(秋田)(愛知)」,「この人どんな人」,「没年日本史人物事典」,平凡社百科事典,